

(電子メール施行)
農技 1371 号
令和元年12月13日

関係機関長 様

兵庫県病虫害防除所長

令和元年度病虫害発生予報第7号を發表します。

令和元年度病虫害発生予報 第7号

向こう3か月の病虫害発生予想

作物名	病虫害名	発生予想	発生現況
春キャベツ	黒腐病	平年並	平年並
	菌核病	やや少	少
タマネギ	白色疫病	やや少	少
	細菌性病害	やや多	平年並
	べと病	やや少	少
	ネギアザミウマ	平年並	平年並
ネギ	ネギアザミウマ	平年並	平年並
春レタス	灰色かび病	やや少	少
	菌核病	やや少	少
	腐敗病	平年並	やや少
	ビッグベイン病	やや多	やや多
イチゴ	灰色かび病	やや少	少
	うどんこ病	平年並	やや少
	アブラムシ類	やや少	少
	ハダニ類	やや多	平年並

* 気象の概況

近畿地方 3か月予報
(12月から2月までの天候見通し)

令和元年11月25日
大阪管区气象台 発表

<予想される向こう3か月の天候>

向こう3か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

この期間の平均気温は、平年並または高い確率ともに40%です。近畿日本海側の降雪量は、平年並または少ない確率ともに40%です。

12月 近畿日本海側では、平年と同様に曇りや雨または雪の日が多いでしょう。近畿太平洋側では、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。気温は、高い確率50%です。降水量は、近畿太平洋側で平年並または多い確率ともに40%です。

1月 近畿日本海側では、平年に比べ曇りや雪または雨の日が少ないでしょう。近畿太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。気温は、平年並または高い確率ともに40%です。

2月 近畿日本海側では、平年と同様に曇りや雪または雨の日が多いでしょう。近畿太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

<向こう3か月の気温、降水量、降雪量の各階級の確率 (%) >

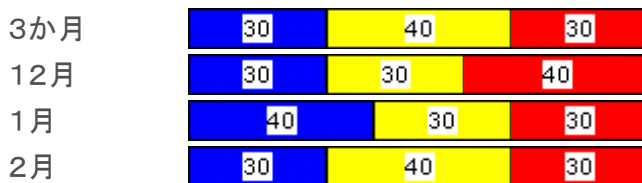
【気 温】

[近畿地方]

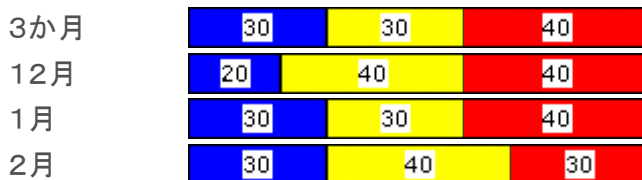


【降 水 量】

[近畿日本海側]



[近畿太平洋側]



【降 雪 量】

[近畿日本海側]



凡例: ■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

* 発生概況及び防除対策上の留意点

春キャベツ

1 【黒腐病】

- (1) 予報の内容 発生量： 平年並
- (2) 予報の根拠
- ア 11月上旬の現地調査では発病は確認されなかったが、11月下旬の巡回調査では発生ほ場率8.3%(平年値8.3%)、発病株率8.3%(平年値0.6%)と平年並の発生であったが、ほ場間差(品種間差)がみられた。
- イ 今後3か月の気象予報によると、気温は平年並～高く、降水量は平年並～多いと予想されており本病の発生にやや助長的である。このことから、本病は平年並の発生で推移すると予想される。

2 【菌核病】

- (1) 予報の内容 発生量： やや少
- (2) 予報の根拠
- ア 11月上旬の現地調査及び同月下旬の巡回調査では発病は確認されていない。
- イ 今後3か月の気象予報によると、気温は平年並～高く、降水量は平年並～多いと予想されており、本病はやや少ない発生で推移すると予想される。

タマネギ

1 【白色疫病】

- (1) 予報の内容 発生量： やや少
- (2) 予報の根拠
- ア 11月中旬の現地調査では発生ほ場率1.0%(前年同期値 3.3%)とやや少ない発生であったが、11月下旬の巡回調査、12月上旬の予察ほ場及び現地調査のいずれも発病は認められなかった。
- イ 今後3か月の気象予報によると、気温は平年並～高く、降水量は平年並～多いと予想されており、本病はやや少ない発生で推移すると予想される。

2 【細菌性病害】

- (1) 予報の内容 発生量： **やや多**
- (2) 予報の根拠
- ア 11月中旬の現地調査では発生ほ場率13.7%(同期過去3カ年平均値11.8%)、11月下旬の巡回調査では発生ほ場率7.1%(平年値13.4%)とおしなべて平年並の発生であった。
- イ 今後3か月の気象予報によると、気温は平年並～高く、降水量は平年並～多いと予想されている。本病は降雨が多いと感染が助長され、暖冬傾向で推移すると予想されていることから発生はやや多くなると予想される。
- (3) 防除上の留意点
- ア 主に腐敗病と軟腐病が発生し、立毛中のみでなく収穫後の貯蔵中にも発生するので、体系的に薬剤防除を行う。
- イ 薬剤防除を行う場合は、病虫害・雑草防除指導指針(兵庫県農薬情報システ

ム)、地域の防除暦等を参考にし、農薬使用基準を守ること。また、同系統の薬剤の連用は避ける。

病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）

<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>

3 【べと病】

- (1) 予報の内容 発生量：やや少
(2) 予報の根拠

ア 11月中旬の現地調査、11月下旬の巡回調査、12月上旬の予察ほ場及び現地調査のいずれも発病は認められなかった。

イ 今後3か月の気象予報によると、気温は平年並～高く、降水量は平年並～多いと予想されており、本病はやや少ない発生で推移すると予想される。

4 【ネギアザミウマ】

- (1) 予報の内容 発生量：平年並
(2) 予報の根拠

ア 12月上旬の予察ほ場では19頭/25株(平年値12.5頭)と平年並の発生であった。

イ 今後3か月の気象予報によると気温は平年並～高いと予想されているが、冬季は繁殖等の活動性が著しく低くなるので、発生は現状で推移すると予想される。

ネギ

1 【ネギアザミウマ】

- (1) 予報の内容 発生量：平年並
(2) 予報の根拠

ア 11月下旬の予察ほ場では被害葉数19枚/75葉(平年値20.6葉)、現地調査では発生ほ場率33.3%(前年同期値33.3%)と平年並の発生であった。

イ 今後3か月の気象予報によると気温は平年並～高いと予想されているが、冬季は繁殖等の活動性が著しく低くなるので、発生は現状で推移すると予想される。

春レタス

1 【灰色かび病】

- (1) 予報の内容 発生量：やや少
(2) 予報の根拠

ア 11月上旬の現地調査、11月下旬の巡回調査ではいずれも発病は認められなかった。

イ 今後3か月の気象予報によると、気温は平年並～高く、降水量は平年並～多いと予想されており、本病はやや少ない発生で推移すると予想される。

2 【菌核病】

- (1) 予報の内容 発生量：やや少
(2) 予報の根拠

ア 11月上旬の現地調査、11月下旬の巡回調査ではいずれも発病は認められなかった。

イ 今後3か月の気象予報によると、気温は平年並～高く、降水量は平年並～多いと予想されており、本病はやや少ない発生で推移すると予想される。

3 【腐敗病】

(1) 予報の内容

発生量：平年並

(2) 予報の根拠

ア 11月上旬の現地調査では発生ほ場率5.0%(前年同期値18.8%)とやや少ない発生であった。11月下旬の巡回調査及び現地調査では発病は認められなかった。

イ 今後3か月の気象予報によると、気温は平年並～高く、降水量は平年並～多いと予想されており、本病は平年並の発生で推移すると予想される。

4 【ビッグベイン病】

(1) 予報の内容

発生量：やや多

(2) 予報の根拠

ア 11月上下旬の現地調査では発病は確認されていないが、11月下旬の巡回調査では発病株率14.3%(平年値1.8%)、発生ほ場率58.3%(平年値 16.2%)と発生時期が早く、やや多い発生であった。

イ 今後3か月の気象予報によると気温は平年並～高いと予想されており、今後もやや多い発生で推移すると予想される。

(3) 防除上の留意点

ア 本病を媒介する菌は主として水媒伝染するため、ほ場の排水を良好に保つ。また、本菌は高pH(6.0以上)を好むため、土壌pHを下げる肥培管理を行う。

イチゴ

1 【灰色かび病】

(1) 予報の内容

発生量：やや少

(2) 予報の根拠

ア 11月上旬の現地調査では発病は認められなかった。

イ 今後3か月の気象予報によると気温は平年並～高く、降水量は平年並～多いと予想されており、本病はやや少ない発生で推移すると予想される。

2 【うどんこ病】

(1) 予報の内容

発生量：平年並

(2) 予報の根拠

ア 11月上旬の現地調査では発病は認められなかったが、現地圃場でわずかに発生が認められている。

イ 今後3か月の気象予報によると気温は平年並～高く、降水量は平年並～多いと予想されており、本病の発生はやや増加し、平年並の発生になると予想される。

3 【アブラムシ類】

(1) 予報の内容

発生量：やや少

(2) 予報の根拠

- ア 11月上旬の現地調査では発生は確認されなかった。
- イ 今後3か月の気象予報によると気温は平年並～高いと予想されている。施設内はアブラムシ類にとって好適な高温・乾燥条件になりやすいことから、今後発生が見られるようになると予想される。

4 【ハダニ類】

- (1) 予報の内容 発生量： **やや多**
- (2) 予報の根拠
 - ア 現地調査では、苗からの持ち込みと思われるハダニ類の発生が見られている。
 - イ 今後3か月の気象予報によると気温は平年並～高いと予想されている。施設内ではハダニ類に好適な高温・乾燥条件になりやすいことから、発生が助長されることが予想される。
- (3) 防除上の留意点
 - ア 薬剤散布を行う場合は、薬液が葉の裏に十分かかるように行うこと。
 - イ 薬剤防除を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）等を参考にし、農薬使用基準を守ること。また、同系統の薬剤の連用は避ける。
病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）
(<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>)

* この情報は、兵庫県立農林水産技術総合センターホームページに掲載
(<http://hyogo-nourinsuisangc.jp/chuo/bojo/index.htm>)